

私の生きがい

浪花 直人

NANIWA Masato

積水化学工業(株)
技術・開発センター課長



私とソフトテニスの出会いは、私が小学5年生の時でした。2つ上の兄が中学校に入学し、ソフトテニス部(当事は“軟式庭球部”と言われていました。)に入ったのがきっかけで、自宅での遊び相手として無理やり教え込まれました。それから、中学・高校とソフトテニス部で汗を流し、大学ではソフトテニス同好会いわゆるサークルに所属し、学生生活を楽しんでいました。

大学を卒業後、京都のとあるコンサルに就職したある休日に、長年続けてきたソフトテニスをプレーするため会社が会員となっていたテニスクラブへ行ったことがありました。するとそこで、ソフトテニスはコートが痛むとの理由でプレーを断られ、それがきっかけでしばらくの間ソフトテニスから離れていた時期がありました。

それから、20年経ち、中学2年生になった息子が、

近畿大会に出場決定したのをきっかけに、自分も昔取った杵柄を復活させたく、市内のソフトテニスクラブの門をたたきました。

私が所属するソフトテニスクラブは、市のソフトテニス連盟に所属する唯一のクラブであるため、市からの委託事業として、ジュニア育成を2011年度から委託され、その担当として私が任命されました。

特別募集をしなかったため、最初は小学生の女の子一人と少々年配の女性の計2人で、形だけの教室をやっていましたが、この女の子が友達に声を掛けてくれたお陰で、生徒が一気に10人程になり、もともと子供が大好きな私は俄然やる気が出てきました。

教室を開設した当初、テニス経験のない彼女たちが、初めて会うテニス好きなオヤジの指導によるソフトテニスを続けてくれるかどうか不安でした。どうしたら彼女たちはソフトテニスを好きになってく



BBQ 集合写真



ダンボール滑り



お母さんも参戦

れるだろうか？指導者の私に慣れ親しんでくれるだろうか必死に考えました。出張の度にお土産を差し入れたこともありました。夏の休憩中にはアイスクリームや冷たい飲み物を差し入れたり、考えられる限りの手を尽くしました。

この甲斐もあって、最近では、後ろから私の背中にボールを当ててふざけてきたり、上手く打てない時はもう一度ボールを投げて欲しいと、何度も何度も納得いくまで練習したりしています。

生徒の親御さん達もかなり協力的で、今年度からはより楽しいサークルにするため、ソフトテニスだけではなく、それ以外のイベントを増やそうと考えました。

夏にはコート横の野外広場でバーベキューを開催したところ、ほとんどの親子が家族を連れて参加してくれました。ただバーベキューでワイワイするだけではつまらないだろうと思い、隠しアイテムとして段ボールを用意しました。野外広場横の斜面で段ボール滑りをさせたところ、子供たちは全員バーベキューそっちのけで段ボール滑りに夢中になりました。

お母さんたちは、最初おしゃべりに夢中でしたが、子供たちのあまりに大きな歓声に影響され、自分たちも子供に戻ったかのように一緒になって段ボール滑りを楽しん

でいたのが印象的です。

現在ジュニアソフトテニスクラブは、土曜日又は日曜日の毎週1回12時から15時の3時間練習していますが、入会の際には、

- ①親も一緒に練習すること
- ②コート内では必要以上に子供に構わない事の2つを条件として、入会いただいております。

現在、会員の幅も4歳の小さな子から小学6年生まで広がり、総勢50人程となっております。

この子達の幾人かが、私を全国中学生大会などの大きな大会へ連れて行ってくれる日を夢見て、毎週楽しく充実した週末を過ごしております。



おしゃべりに夢中